

【第 33 回対策本部会議】7 月 31 日

健康福祉部長／前回 27 日は 20 人の感染を報告した。今朝、1 名増え 29 人の感染を確認。

これまでの特徴は、若い世代がほとんどで、福岡市のクラブ利用者が多い。その中でも、福岡市と関係がない事例も出てきている。

- 73 例目は、30 代女性、感染経路を調査中
勤務先の保険会社は、ホームページで感染を公表している。それによると、社内で 6 名の感染者が出て、うち 3 名が福岡市在住。
- 74 例目は、73 例目の同僚で 50 代女性
陽性を確認したが無症状。73 例目とは、職場で席が隣。職場での感染と推察する。ほかに 2 人の検査をしたが陰性だった。
- 75 例目は、20 代女性、県内の飲食店に勤務
感染経路を調査中。家族や勤務先のスタッフと客の PCR 検査をする予定。
- 76 例目は、50 代男性
27 日に発熱等の症状。25 日まで広島県に滞在、佐賀に戻って県内の友人と飲食。感染経路を調査中。
広島県では 24 日～30 日に 68 人の感染者が出ている。

ここ数例は、感染経路が分かりにくい事例が発生。他県の感染状況も注視する必要がある。

73、74 例目のように、知人同士ではマスクなしで話すこともあるだろうが、近距離で長時間の会話するときは、マスクを着用し感染防止を意識してほしい。

医療統括監／前回は 20 代以下の感染者が 9 割。現在、30 代～50 代の感染者が、増えてきている。

<九州の感染者発生状況>

図の右側の数字が直近 2 週間、左がさらに 2 週間前の数字。

福岡は、繁華街の飲食店でクラスターが起こっている。

熊本は造船所関係、長崎は医療関係。

宮崎は宮崎市の周辺地でスナックでのクラスターが発生、3 人から 101 人。

鹿児島では、ショーパブのクラスターが 2 週間以前にあり 141 人から 74 人に。

沖縄も急速に増えて、7 人から 175 人。

司会（危機管理・報道局長）／鹿児島はショーパブのクラスターから、県内全域に 7 月 8 日～21 日まで休業要請がかけられている。

宮崎県は、高鍋町でクラスターが発生し、そこを含む周辺の 7 市町に対し、接待を伴う飲食店を対象に、7 月 28 日から休業要請がかけられた。その後、8 月 1 日からは県内全域で 16 日まで拡大。また、県内全域の居酒屋など飲食店は、酒類の提供が 19 時まで、営業は 20 時までの営業時間短縮を要請。

沖縄県は、那覇市の繁華街の接待を伴う飲食店に対して、8月1日～15日まで休業要請がなされている。

教育委員長／最近の感染者が20代に多い。その弟や妹が、高校生以下かもしれないと、毎日緊張感を持って見守っている。

休校はないが、みやきと神崎の小・中学校で臨時休校したと聞いた。家族がPCR検査を受ける場合は、学校に連絡してもらうよう、協力をお願いしたい。

SSP杯は、この週末に柔道、雨で順延している野球が火曜日で決勝を迎える。最後まで緊張感を持って取り組みたい。

総務部長／各種専修学校、各種学校長に対し、感染予防の徹底と福岡市内の感染率が高い場所への外出を控えるよう連絡している。

また、職員に対しても感染拡大防止の徹底を周知する。

男女参画・こども局長／保育所等で感染発生はないが、子供たちへの感染防止に気を引き締めている。

明日から夏休みに入る。子供たちへの熱中症対策と感染予防に努める。

昨日、児童養護施設から、面会の予約制、時間の制限や健康チェックの徹底をしていると報告があった。

産業労働部長／新型コロナ支援策を周知の際、商工団体や市町の商工会に、業種別のガイドラインを紹介している。国からも団体へ周知しているが、改めて業種別のガイドラインの遵守の徹底をお願いしたい。

また、経済面への影響について事業者に話を聞くと、7月に入って戻っていた客足が、4連休で一気に減った。夜間営業のお店は、客がほとんどいない。予約が入った時だけ営業し、ほかの日はバイトをしているらしい。中には閉店を考えるとという声も聞いた。

佐賀県は支え愛活動局面。居酒屋やレストランでの食事は、ガイドラインに沿って感染防止をしているお店の利用は問題ないと考えている。自粛しすぎることなく、地域のお店を利用するよう、各部局の皆さんに協力をお願いしたい。

文化・スポーツ交流局／所管する施設は、ガイドラインに従い、消毒や換気、人数制限に取り組んでいる。

4連休では、宇宙科学館の利用が多かった。入場基準を館内300人、駐車場100台と決めていたが、車の入場制限をするほどだった。

イベント関係は、座席の間隔をとり開催している。オンラインに切り替えているものも多い。

観光関係の取り組みでは、旅館で感染防止対策のピクトグラムを作り、ホームページに掲載している。

地域交流部長／交通関係について。佐賀空港で5月12日から、到着客にサーモグラフィーの検温を実施。

これまで37.5度以上の人はいない。今後、出発客への実施も準備している。

国内線利用者数は、緊急事態宣言解除後、増加傾向にある。引き続き、利用者への注意喚起を行う。

鉄道やバスの利用について。通勤・通学の定期利用は、ほぼ元に戻っている。ガイドラインの徹底を要請していく。

県民環境部長／羽戸岬、北山キャンプ場は、コロナ以前の状況に戻りつつある。特に、羽戸岬は天気良い休日は、連日満員だった。8月の予約も前年並みになっている。

県外からの利用が7、8割で、ほぼ福岡の客。サイトは、車で入るところ等が区画され、距離が取れている。炊事場は、混み合わないよう注意喚起もしている。

県内のCSOに持続支援金として、ふるさと寄附金を活用し打ち合わせしている。佐賀未来創造基金を經由し、これまで93の団体に交付した。

政策部長／県では「支え愛」の取り組みを進めている。生産者との「支え愛」マルシェの開催や平日の宿泊キャンペーンを来週からスタートさせる。

また、8月9日には、「支え愛県民みんなの表彰式」も開催する。十分な感染予防をしつつ、官民と連携して取り組んでいきたい。

知事／今日、東京は463人。昨日、福岡市で1日に75人。佐賀の人口で換算すると40人。

我々は、一つひとつ丹念に調べているが、1日に40件や400件もあると、ていねいに追えているとは思えない。この状況になると、もうお手上げになるのだろう。数が少ない時期に、一つひとつ封じ込めること。大変だけれど、これをやるのが県民を守ることになる。

佐賀の28件は、ほとんどが若者のダンスクラブ由来。ネットで調べると、金・土曜日に休業するところもあれば営業する店もある。若い人たちは、ここは我慢して利用を控えてほしい。そこでの感染がこれから10日後にやってくる。その繰り返し。佐賀県は福岡と大いにつながっている。

佐賀県は、高齢者も含めた病院への感染が今のところない。これは、とてもありがたく、ここで抑えなければいけない。

福岡の行く場所に気をつけること、他県に行った人は、感染予防に注意してほしい。

佐賀県内では、コロナウイルスが市中にはないと思っている。感染者に対して、すぐに病院かホテルに入ってもらっている。この状態を維持したい。医療機関は、苦労しながら「プロジェクトM」に応えてもらっている。この状況のままゼロに持っていききたい。

しかし、リスクは常に潜んでいて、この先どうなるか想定できない。現状は、支え合う活動をしながら、最悪の状況に備えておく。

この週末は、特に若い皆さん、福岡市内のクラブは控えてほしい。打ち合わせや接客で、マスクをせずに感染したのではというケースが出てきている。飲食の際は、感染を意識した行動をして欲しい。

市町の皆さんも、チーム佐賀、オール佐賀で頑張っていきたい。ここが大事な局面です。